

職員座談会

ベテラン職員から若手職員までさまざまな役職の職員がいる中で、「財務専門官として求められているもの」はなんだろうか。また、実際に働いている職員が思う「仕事のやりがい、福岡財務支局の魅力」とはなにか。立場も違えば、経歴も違う4人の職員にお話を伺ってみました。

理財部
金融監督第二課 調査官
古閑 大樹

平成12年4月 福岡財務支局採用
理財部金融監督第一課
~~~~~  
平成24年7月 長崎財務事務所  
総務課総務係長  
平成26年7月 長崎財務事務所  
財務課調査官  
平成28年7月 総務課人事係長  
平成30年7月 現職



管財部  
管財総括第一課 課長  
**大淵 伸也**

昭和58年4月 福岡財務支局採用  
総務部総務課  
~~~~~  
平成25年7月 理財部
統括金融証券検査官
平成26年7月 金融庁検査局
総務課金融証券検査官
平成28年7月 理財部検査総括課長
令和元年7月 現職

管財部
管財総括第一課 課員
徳重 想野佳

平成30年4月 福岡財務支局採用
管財部管財総括第二課
令和元年7月 現職

理財部
融資課 上席調査官
桑原 恵美

平成10年4月 福岡財務支局採用
経済調査課
~~~~~  
平成25年7月 管財部国有財産管理官  
平成27年7月 総務課広報相談係長  
平成28年7月 総務課企画係長  
令和元年7月 現職

## ファシリテーター▼

本日は、課長・上席(課長補佐)・係長・係員という役職の違う方々に集まっていたいただきましたので、それぞれの目線でのお話を伺いつつ、福岡財務支局の様子や雰囲気を受験生の皆さんにより身近な形でお伝えできればと思っています。

まずはじめに「財務局職員に求められるもの」について、皆さんの思うところをお聞かせください。



## 「協調性」や「連携能力」

### 大淵課長▼

財務局の仕事は多岐にわたっているため、若い間

に、業務に関連する知識を吸収することが大切です。また、仕事はチームプレーなので、チームとして仕事をしていく能力、すなわち協調性や連携能力が必要だと思っています。我々管理職クラスは、そうした連携をうまくやっていくための方向性を示し、チームを導いてくことが仕事だと思ってやっています。

## 「対応力」と「対話力」

### 桑原上席▼

大淵課長が仰るように財務局の業務は課が変わると全く違う業務をすることになりますね。ですのでどの課に異動しても対応できる対応力が求められると思います。

それは、新しい仕事でも前向きに取り組むことができるチャレンジ精神であるとも言えます。新しい仕事を自分の成長の機会と捉えて楽しむことが重要です。

また、財務本省と比べると、財務局は地域との距離感が近く、地域の人と直接対話をし、どうしてもその人たちの問題を解決できるのか聞き出す



能力、対話力がようになってくると思います。また、私の役職である上席は、組織の目標を達成するための先導役である課長をサポートしつつ、同時に部下が困っていないかを見渡すことも必要となってきます。

ただ、今年はじめて上席になったばかりなので、まだまだ手探り状態ではあります。

係長と違って、席も窓際に移動し、物理的にも課を見渡しやすくなったので、今後の課題ですね。

### 「時代に対応する能力」

#### 古閑調査官▼

桑原上席が仰っている対応能力は私も重要だと思います。

私は、採用当初に金融部門に配属されて、今また金融の仕事をしていますが、採用当時にはなかった仕事がたくさんあります。

例えば、先程話にもあがっていた「対話」のやり方も少しずつ変わってきています。10年以上前には金融機関の不良債権問題に対してどう立て直していくかを金融機関と共に模索していましたが、今ではそういった話題ではなく、近年の新しい取り組みについて、話しています。

このように、仕事のやり方は時代に合わせて変わっていきます。そういった点で、財務局職員として求められるものは時代に対応する能力だと思います。そしてそれを一人だけの力でやっていくのは難しいので、職員の内外問わず、いろんな人と対話をして多くの情報を得ながらやっていくことが大事です。そこで協調性や連携能力にも繋がってくると思います。



### 多岐にわたる業務に対応する

#### 徳重課員▼

私が周りの人からよく言われるのは「ダンボの耳になりなさい」です。上司によれば、今の業務と関りがなく思えることでも、いつかどこかで役立つときがくるとのことです。財務局の業務は多岐にわたっていますが、それぞれが分断されているわけではなく、繋がっている部分もあります。

ですので財務局職員として求められるのは好奇心旺盛なことだと思います。知りたいことを周りの皆さんがもっと教えてくれる職場です。

#### ファシリテーター▼

業務は多岐にわたっていて、異動したら大変ではないかと学生によく聞かれるのですが、まだ管財しか経験していない徳重さん、いかがですか？

#### 徳重課員▼

新しい業務にうつるとたくさん勉強しないといけないことが不安です。

新しい知識を入れていく中でみなさんの気を付けていることはありますか？過去にやったことを忘れそうで（笑）

#### 桑原上席▼

過去にその業務に触れて、何となく聞いたことがあるという記憶があるだけでも、かなり抵抗感がなくなるかな。私も今の融資の仕事は8年ぶり、採用2年目のときからすると20年ぶりくらいだけど、以前にその仕事をしたことがあるというだけで安心感がありましたね。過去のことなので、忘れてしまったとしても、また思い出せばいいし、むしろ新しいことを覚えるときは、わかったつもりにならないで、知らなくて当然と思って周りの人にきいたほうがいいと思います。

#### 古閑調査官▼

徳重さん、職場の周りの人には聞きやすい雰囲気かな？

#### 徳重課員▼

自分で調べようと思ったらいろんな人が「これを見たらいいよ」と方向性を示してくれますし、非常に質問もしやすい雰囲気です。後輩が入ってきたときに、吸収しただけでなく、教えられるようにならないといけないと実感しました。

#### 大淵課長▼

うちの職場は職員数も少なく職員同士の距離が近いのも、聞きやすい雰囲気を作っている要因かもしれません。どんどん聞いてくれ

たほうがいいと思っているし、管理職もそういう雰囲気を積極的に作ろうという意識を持っていますね。

#### ファシリテーター▼

職場の雰囲気は入局して初めてわかったことだと思いますが、他に入局後になってわかった印象的なことなどはありますか？

#### 徳重課員▼

業務外のことについては、女性職員が思ったよりも多く、働きやすい環境だと思いました。社会人になる前は周りに女性でベテランまで働いている人があまりいませんでしたので、女性としてどのように働けばよいのかモデルになるような人がいませんでした。ですが、財務局には出産や育児をしながらも多くの女性先輩職員が働かれています。生涯とおして働ける職場なんだという安心感を感じているところです。

それから、業務の話で言うと、自分の関わった仕事を実際に目に見える形で地域の役に立っているとわかったことです。

私が採用された当初に関わっていた国有地の仕事で、福岡市中央区六本松に司法機関を移転する事業がありました。財務局の仕事が地域の活性化に貢献していると実感した体験でした。



## 国と地域の懸け橋として

### ファシリテーター▼

それでは、「財務局の地域貢献」という点について、普段の業務の中で感じることをより詳細にお聞かせください。

### 大淵課長▼

財務局は「国と地域の懸け橋としての役割を担う」というコンセプトがあります。近年、地域連携の強化が国の施策としても重要なものに位置付けられています。

しかし、思い返してみると、財務局の業務は全てが地域連携に繋がっているんです。どの仕事をしても、地域に貢献できるというのが財務局の魅力の一つかと考えています。

### 古閑調査官▼

それぞれの業務の中で「地域の役に立った」という印象に残る仕事があることも魅力です。管財業務をやっていたときは、入札で売れた土地に新しい建物が建ったときのことはとても印象に残っていますね。売払った土地もすぐに売れるわけではなく、何度も現地に足を運んで状況を確認して、契約を取り交わしてというプロセスを踏んでいきますから、自分がこれまでやってきたことが形になったときには、地域の役に立ったなという実感が湧きました。

### 大淵課長▼

地域との距離が近く関わりの強い仕事が多いのと同時に、財務本省や金融庁との距離も近いというのもよく感じます。本省庁には全国の財務局出身者が多く、財務局に関して理解がある人が多いこと、そして自分が出向していたときに本省庁の様子や人を知っているということもあり、こちらの意見を聞いてもらいやすいように思います。



### 古閑調査官▼

再三話にあがっていますが、財務局の仕事で地域貢献に繋がっていない仕事はありません。

例えば、先程お話したように、国が持っている土地を売払うことで、新しい地域の活性化に貢献できます。

金融部門では、金融機関に金融仲介機能の発揮を求めており、お金を貸すべきところに貸しているかを注視しています。もし設備資金が必要な事業者がいたとすると、金融機関からお金を借りることで新しい工場などが建ち、新しい雇用所得が生まれ、それが地域の発展に繋がっていきます。



## 地域に密着した国家公務員

### 桑原上席▼

財務本省や金融庁が打ち立てた、国としての方向性がありますが、それを地域に当てはめた場合にどのような施策を行っていくのがよいのかというブレイクダウンをしていくのが私たちの役割です。国の施策をうちの地域にどうあてはめたら地域がより良くなるかを考えることができるのが財務局の懸け橋といわれる所以ではないかと思います。

地域との対話の中で人々の声を吸い上げ、国の施策を地域に還元していくように考えられるのは国家公務員としての財務局独自のことであると考えます。

### 徳重課員▼

確かに、財務局は国家公務員なおかつ地方局であるという強みはあると思います。

地方の情報だけでなく、全国の事例を持っているので、何か困ったことや知りたいことがあれば、他の地域の情報を聞いて参考にすることができます。

また、全国に財務局や金融庁の同期がいるので仕事のことをよく質問したり、相談したりしています。

### 古閑調査官▼

新規採用者は入局して最初に東京で2カ月間の研修があるから、そのときの同期との横の繋がりはその後の業務をしていくうえでの強みになるよね。

### ファシリテーター▼

皆さん、本日はありがとうございました。

これを機に、福岡財務支局に興味を持ってくれる受験生が増えることを願っています。